

令和 6 年度 健康福祉委員会行政視察報告書

◎実施日：令和 6 年 4 月 2 4 日（水）～ 2 5 日（木）

◎参加者：桜田 慎太郎（委員長） 後藤 浩一郎（副委員長）

古川 隆史 渡邊 晋宏 田中 晋 武藤美津江

伊藤 誠 林 紗絵子 北村 和之

◎調査内容

実施日	視察先	視察項目
4 月 2 4 日	愛知県 小牧市	小牧市民病院の現地建て替えについて

小牧市は人口約 15 万人で，市域面積が 62.81 平方キロメートルの市である。

小牧市民病院は令和元年 5 月，現地建て替えを経て新たに開院した病院で，開院後約 5 年が経過している。この市民病院について，院内を案内いただき，各施設，機能などの説明を受けた。

新病院の開院後，旧病院の解体，更地化，立体駐車場の建設などを経ており，最終的な完成形となったのは 2 年ほど前のこととなる。旧病院解体期間においては病院利用者に負担がかかり，また，その対応のため職員負担も増加していた。

当初計画時よりも高齢化が進んでいることなどから，その影響を受けてスペースが手狭となっている診療科もある。今後 5 年，10 年後には医療の在り方を含めさらなる変化が想定されている。

当該病院は救命救急センターを持ち，基幹病院として愛知県の尾張北部医療圏での急性期医療を担っている。また，災害拠点病院としても指定を受けている。

旧病院は昭和 60 年に建築し，増改築を繰り返してきたが，施設の老朽化が激しく，求められる医療機能に追いついていないことから，令和元年 5 月の新病院棟建設に至った。

現地での建て替えを行うこととなった経緯として，新しい土地の購入には莫大な予算がかかること，また，敷地内に平成 8 年竣工の健診センター棟がありこちらはまだ活用できることなどがあった。

建て替えの完了後，実際に新病院の運営がスタートしてからの課題点として，駐車場や外来スペースの面積がやや狭隘であったことなどが挙げられた。

新病院における利用者視点に立った病院の構造として、建物内により外部の光が入るような設計にしていることや、照明器具なども気分が落ち着くような色彩を採用するなど、様々な工夫が取り入れられている。また、医療面においても、スタッフステーションに看護師を基本配置しないセル看護方式を採用しており、より利用者・患者に寄り添えるような運用がなされている。

そのほか、手術用ロボットやハイブリッド手術室の導入など様々な機能を有している。過去においては設備面などの都合上、国立大学へ搬送していた患者の治療を、建て替え後は当該病院で完結することができるようになってきているなど、高次医療を提供し、地域における拠点病院としての役割を果たしている。



小牧市民病院 医療の4つの特長



◎ 調査内容

実施日	視察先	視察項目
4月25日	三重県 伊勢市	市立伊勢総合病院の現地建て替えについて

伊勢市は人口約12万人で、市域面積が208.37平方キロメートルの市である。

市立伊勢総合病院は現地建て替えを経て、平成31年1月に新たに開院した。この市立病院について、院内を案内いただき、各施設、機能などの説明を受けた。

建て替えの経緯として、平成10年実施の耐震診断で旧病院は「耐震性に疑いがある建物」との結果が出た。この結果に基づき耐震補強計画を進めたものの補強箇所が200か所以上あり、病院を運営しながら、騒音や振動等の影響なしでの耐震補強工事は困難との判断に至り建て替えを行うこととなる。その後、平成23年9月、市長の議会における「伊勢志摩地域医療の要の1つとして、これから高齢化が進む中で市民の皆様の健康に対するニーズが非常に高く、新しく建て替える方向性でいきたい」という意見表明があり、これを受けての「新市立伊勢総合病院建設基本計画策定委員会」発足を経て、建設基本計画策定に至った。

新病院の機能として、一般病棟における急性期医療をはじめ、地域包括ケア病棟・回復期リハ病棟・ホスピス病棟を最大限活用して切れ目のない医療を行っている。

大規模災害も想定し、免震構造の採用・屋上ヘリポートの設置などを行い、医療継続が可能な体制を整えている。また、自然力を生かした省CO₂建築や非常時に備えた設備計画を網羅した病院となっている。

新病院竣工に至るまでの着工経過として、平成25年から順次、測量・地質調査、建設用地取得、建設工事基本設計の着手、建設地造成工事の着工、新病院建設工事の着工、という流れを経て平成30年竣工に至っている。完成した建物は地上5階建てで、延べ床面積25,378.64平方メートル、鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造、という構造になっている。新病棟がオープンしたのは平成31年1月のことだが、旧病院解体及び駐車場の整備が行われたのは平成

31年度のことだった。

新病院の建設事業費については、工事費用や用地取得費用などを含め、合計197億9,000万円であった。

建て替え・新病院開院を機により一層の親しみを持ってもらうため、シンボルマークを募集した結果、全国から1,228点の作品が寄せられた。現在のシンボルマークはこの中の最優秀賞として選ばれた作品となっている。

新病院における構造上の工夫点として、外来患者利用施設を集約配置したことによるわかりやすさの向上や移動負担軽減、専用庭園配置による明るく広いリハビリ部門、関連性の高い手術部門・ICU・HCU・外科系病棟の集約配置と専用エレベーターによる救急部門との動線確保、ゆとりのあるリハビリ訓練スペースやデイルームなどが挙げられる。



新病院のシンボルマーク



新病院の開院を機会に、より一層愛され親しみを持っていただくとともに、理念である「人間性豊かな市民病院」を象徴していくシンボルマークを募集した結果、全国から1,228点（うち小・中学生1,063点）の作品が寄せられました。

最優秀は
こちらの作品です。

